

学校再編だより

中和小学校

— 第 2 号 —

— 保護者と地域の協働による検討会議 —

令和5年 8 月発行

旭市教育委員会教育総務課 学校再編室

第 1 回中和小学校の再編に係る 地域検討会議を開催しました

7 月 4 日（火）午後 6 時 3 0 分から干潟公民館 1 階ホールにおいて、中和小学校地域検討会議を開催しました。

はじめに、教育長から委嘱書の交付があり、保護者代表 5 名、地域住民代表 4 名、学校教育関係者 2 名、福祉関係者 4 名、青少年育成関係者 3 名、その他教育委員会推薦者 4 名の計 22 名を委員として任命しました。その後、会長・副会長が選出され、会長の進行により会議が進められました。

今回の会議では「会議の目的と運営方法」、「学校再編基本方針の概要」、「干潟地域の各小学校の現状と保護者アンケート結果」について、教育委員会から説明し、その後意見交換を行いました。

委員からは「早く統合してほしい」、「より広範囲の統合」、「もっと広域で小中一貫校」などの意見がありました。（詳細は裏面に掲載）



第 1 回地域検討会議の様子

会議で出た意見をもとに、今後も中和小学校の再編について検討していきます。

第 2 回会議開催 日時：令和 5 年 8 月 2 8 日（月）午後 6 時 3 0 分から
場所：干潟公民館 1 階ホール

※この会議は傍聴することができますが、会場内のスペースの関係により定員を10名とします。あらかじめご了承ください。

第1回中和小学校地域検討会議で出た主な意見

委員から出た意見を要約して掲載しています。

○小中一貫校にしたい。中学校は広域農道より北側、できれば干潟地域に建ててほしい。

○干潟地域に小学校が1校でも残るなら、統合には賛成。

○人数が減ってきているので統合はやむを得ない。ただ過疎地域ということが気になるので、子どもが遊べるような施設が欲しい。

○児童数の少なさに驚いている。早く統合して、多い人数で生き生きとしている姿が見たい。

○早く統合してほしい。児童数が多い地域と少ない地域の子どもは全然違う。子どものうちから小さい社会ができるような状態の場所があったらいい。

○世界的には少人数教育に向かっている中で、日本だけが大人数教育に舵を切っている。無理に統合しなくてもいいと思う。

○統廃合についてはもう待ったなしだと思うが、先々を見据えてもっと広範囲の統合のほうが無駄がなくていいのではないかな。

○大人数も良い部分と大変な部分がある。子どもたちが一番いい状況にしてあげられたらいい。市で人口が増えていくような取り組みはないのか。

○運動会が半日で終わってしまうなど、自分たちの頃は考えられなかったのが早く統合したほうがいい。

○自分たちの子どものことを考えると早く統合したほうがいいと思うが、さらに先の未来を考えると古城小の統合でどうなのかなとも思う。

○学童やスクールバスのことが心配だが、早く統合はしてもらいたい。

○早く統合してほしい。スクールバスは何台で、どこにとまるのが気になる。

○児童数の減少を見ると統合は必要だと思うが、中学校の部活動を考えたときに、もっと広範囲の統合でもいいのではないかな。

○複式学級にもメリットはあると思うが、統合して1学年1学級で生活できるような場を提供してあげたい。

○干潟地域の良さだったり、学校文化は新しい学校にも引き継いでもらいたい。

○小規模校は少ない人数で教育を受けられるチャンスとも捉えられるが、複式学級は避けなければならない。3校の統合は現状ベストな案だと思う。

○児童数の減少を見ると、早く統合を進めないと子どもたちの学びが狭くなってしまうと思う。

○複式学級を避けるためにも小学校の統合は早く進めてもらいたい、中学校も一緒に進めて小中一貫がいいと思う。

○なるべく早く統合を進めてもらいたい、過疎化が進む中で、もっと大きな範囲での統合でもいいのではないかな。



学校再編だより

萬歳小学校

— 第 2 号 —

— 保護者と地域の協働による検討会議 —

令和5年8月発行

旭市教育委員会教育総務課 学校再編室

第1回萬歳小学校の再編に係る 地域検討会議を開催しました

7月6日（木）午後6時30分から萬歳小学校ランチルームにおいて、萬歳小学校地域検討会議を開催しました。

はじめに、教育長から委嘱書の交付があり、保護者代表5名、地域住民代表5名、学校教育関係者2名、福祉関係者4名、青少年育成関係者3名、その他教育委員会推薦者5名の計24名を委員として任命しました。その後、会長・副会長が選出され、副会長進行により会議が進められました。

今回の会議では「会議の目的と運営方法」、「学校再編基本方針の概要」、「干潟地域の各小学校の現状と保護者アンケート結果」について、教育委員会から説明し、その後意見交換を行いました。

委員からは「干潟地域で小中一貫校」、「場所を3校の真ん中・干潟中にしてほしい」、「スピード感をもってやってほしい」などの意見がありました。（詳細は裏面に掲載）



第1回地域検討会議の様子

会議で出た意見をもとに、今後も萬歳小学校の再編について検討していきます。

第2回会議開催 日時：令和5年8月29日（火）午後6時30分から

場所：干潟公民館1階ホール

※この会議は傍聴することができますが、会場内のスペースの関係により定員を10名とします。あらかじめご了承ください。

第1回萬歳小学校地域検討会議で出た主な意見

委員から出た意見の一部を要約して掲載しています。

○萬歳小は一番離れているので、登下校の時間が気になる。統合校の場所は干潟中辺りがいいのではないか。	○今後また統合の話が持ち上がるのなら、小学校も小中一貫にしたほうがいいのではないかな。
○この会議がどういうふうに進められていくのか聞きたい。	○通学方法についての検討は早い段階で行ったほうがいい。
○校舎の改修や新設をする際に、給食施設を併設できないか。給食センター方式ではなく自校方式の給食提供を検討してもらいたい。	○統合当初は先生を多めに配置するなど、統合した際の子どもたちの心のケアを考えてもらいたい。
○いつ統合されるというのが保護者の方たちに全然周知されていないのが気になっている。	○3、4年前から統合の噂話は出ていたので、統合はもう決まっているのかと思っていた。
○まだ資料を見たばかりで、今のところ特に意見はない。	○どこに通うことになっても子どもたちの安全がしっかり守られていればいい。バスの運行や集合場所などをしっかり整えてほしい。
○再編が決まった時に在校生の移動するタイミングや担任の先生などはどうなるのか。	○距離が遠いので通学するのにどのくらいの時間の差ができるのか気になる。真ん中の干潟中辺りが理想的だと思う。
○まだ5年先の話なのでゆっくり考える。	○もう統合に向けてスピード感をもってどんどんやってほしい。
○まだよくわからない。	○中学校は新設するという説明だったので、小学校も一緒に造って小中一貫校にしたほうが早いのではないかな。
○萬歳小学校は来年150周年を迎えるが、大きな節目となる時期を迎えている。子どもたちのために力を尽くしていきたい。	○統合はやむを得ないと思う。資料を見る限り古城小に行くべきなのはわかるが、通学のことを考えると真ん中にしてほしいというのが率直な気持ち。
○統合はメリットもデメリットもあると思うので、子どもたちにとって一番いい方向を考えていきたい。	○萬歳の人間からすると古城まで行くのにはアレルギーがある。干潟中に小中一貫校を建てるのが一番問題のない方法だと思う。
○地域から学校がなくなるので、高齢者などにも事前の周知が必要。また干潟中で小中一貫にしたほうが地域としては抵抗感がないと思う。	○古城小も一部土砂災害警戒区域に入っているため、この点も踏まえて統合場所の検討も必要。近隣市の先行事例の情報提供をしてもらいたい。



学校再編だより

古城小学校

— 第 2 号 —

— 保護者と地域の協働による検討会議 —

令和5年8月発行

旭市教育委員会教育総務課 学校再編室

第1回古城小学校の再編に係る 地域検討会議を開催しました

7月12日（水）午後6時30分から古城小学校ランチルームにおいて、古城小学校地域検討会議を開催しました。

はじめに、教育長から委嘱書の交付があり、保護者代表5名、地域住民代表4名、学校教育関係者2名、福祉関係者4名、青少年育成関係者3名、その他教育委員会推薦者5名の計23名を委員として任命しました。その後、会長・副会長が選出され、会長の進行により会議が進められました。

今回の会議では「会議の目的と運営方法」、「学校再編基本方針の概要」、「干潟地域の各小学校の現状と保護者アンケート結果」について、教育委員会から説明し、その後意見交換を行いました。

委員からは「早く統合してほしい」、「通学路の安全確保をしてほしい」、「土砂災害対策をしてほしい」などの意見がありました。

（詳細は裏面に掲載）



第1回地域検討会議の様子

会議で出た意見をもとに、今後も古城小学校の再編について検討していきます。

第2回会議開催 日時：令和5年9月4日（月）午後6時30分から
場所：干潟公民館1階ホール

※この会議は傍聴することができますが、会場内のスペースの関係により定員を10名とします。あらかじめご了承ください。

第1回古城小学校地域検討会議で出た主な意見

委員から出た意見を要約して掲載しています。

○道路の整備など、通学路の安全確保を考えてもらいたい。	○統合まで4、5年ということだが、もっと早くならないのか。
○アンケートでいただいた意見に対する回答は検討しているのか。	○すでに再編の方向性は固まっているので、要望をまとめることを主に会議を進めてもらいたい。ここまできたらスピード感が大事。
○統合するということをわかっていない子どもたちもいると思うので、子どもたちにもアンケートを取ってどう思っているのか聞いてみたい。	○登下校の安全を第一にしてほしい。スクールバスを出した場合、きちんと人数確認などを行ってほしい。
○古城小への統合はもう決定事項だと思うところもあるが、どこまでが決定していて、どこからが検討できることなのかはっきりしてもらいたい。	○すでに統合を行っている他市の状況、デメリットなどを教えてもらいたい。
○できれば早めに統合してあげたほうがいいと思う。廃校となる学校の活用に関しても、早い段階で決めてもらいたい。	○統合になるという話を最初に聞いたのはもう随分前なので、早く進めてもらいたい。
○子どものことを一番に考えて、早く統合を進めてもらいたい。	○土砂災害警戒区域に入っているとのことなので、その対策をしっかりとってもらいたい。
○旭のほかの地域とばらつき感がある。早く意見がまとまれば早く統廃合するのか。	○古城小に通っている子どもたちや保護者、教職員に不便なところや直したほうがいいところをアンケートを取って聞いたらいいと思う。
○安全面と子どもたちの教育の質の確保を大事にした統合を進めていけばいいと思う。	○安全に通ってもらいたいので、バスを出してもらったり、通学路の安全対策、土砂対策をきちんとしてもらいたい。
○小規模校の良さもある反面、同級生の固定化や意見交換の質など苦慮する部分もある。	○古城小は土砂災害警戒区域に入っており、旧干潟町の端に位置することから、中心部である中和地区に新しい学校を新設することは考えられないか。
○こういうアンケートがあったことを知らなかった。	○災害があった場合にはここが避難場所になると思うので、土砂災害対策は早急にやってもらいたい。
○古城地区の児童にもスクールバスは出るのか。	○スピード感をもって早く進めてもらいたい。また中和、萬歳も含めて地域の一体感の醸成をうまくやっていけたらいい。



2023.4時点

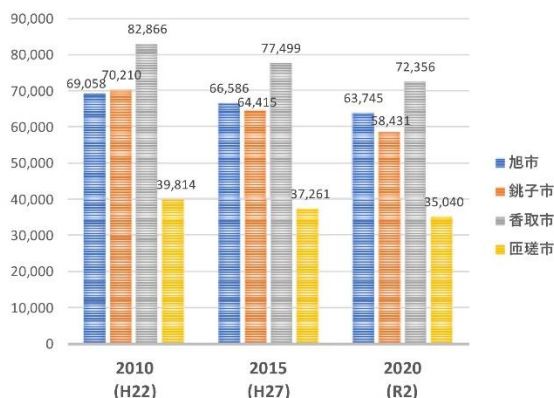


相談・教室・あずかり・ひろば系

近隣市の人口等の推移

人口（国勢調査）

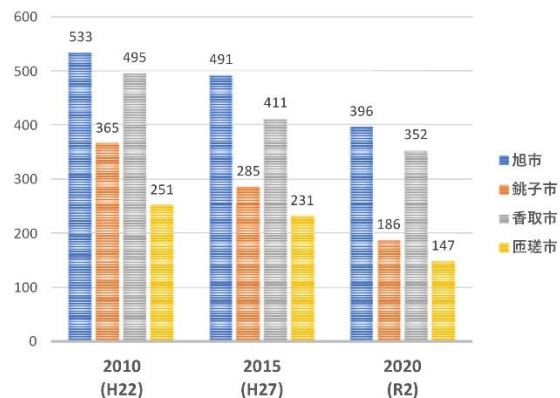
	(人)				面積(R2) km ²	人口密度(R2) 人/km ²
	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	減少数 2010→2020		
旭市	69,058	66,586	63,745	▲ 5,313	130.45	488.65
銚子市	70,210	64,415	58,431	▲ 11,779	84.20	693.95
香取市	82,866	77,499	72,356	▲ 10,510	262.35	275.80
匝瑳市	39,814	37,261	35,040	▲ 4,774	101.52	345.15



- ・各市の人口は軒並み減少傾向にある。
- ・2010（H22）と2020（R2）を比較すると銚子市の減少率が高い。
旭市の減少率は、4市のうちで一番低い。

出生数（人口動態調査）

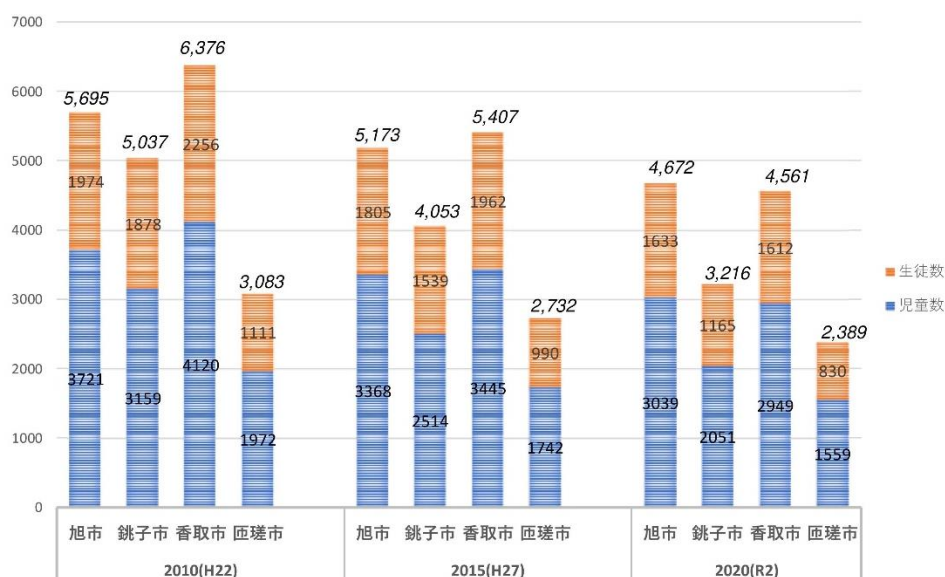
	(人)				面積(R2) km ²	人口密度(R2) 人/km ²
	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	減少数 2010→2020		
旭市	533	491	396	▲ 147	130.45	3.04
銚子市	365	285	186	▲ 161	84.20	2.21
香取市	495	411	352	▲ 87	262.35	1.34
匝瑳市	251	231	147	▲ 95	101.52	1.45



- ・各市の出生数は軒並み減少傾向にある。
- ・出生数は旭市が一番多い。
- ・香取市の人口は旭市よりも多いが、出生数は旭市が多い。

児童生徒数（学校基本調査）

	2010(H22)			2015(H27)			2020(R2)			減少数 2010→2020	学校数(R4.5.1)		
	児童数	生徒数	合計	児童数	生徒数	合計	児童数	生徒数	合計		合計	小学校	中学校
旭市	3,721	1,974	5,695	3,368	1,805	5,173	3,039	1,633	4,672	▲ 1,023	20	15	5
銚子市	3,159	1,878	5,037	2,514	1,539	4,053	2,051	1,165	3,216	▲ 1,821	16	11	5
香取市	4,120	2,256	6,376	3,445	1,962	5,407	2,949	1,612	4,561	▲ 1,815	22	15	7
匝瑳市	1,972	1,111	3,083	1,742	990	2,732	1,559	830	2,389	▲ 694	13	10	3



- ・各市の児童生徒数は軒並み減少傾向にある。
- ・香取市の人口は旭市よりも多いが、児童生徒数は旭市が逆転した。

千葉県旭市の主な支援制度の概要

分類	概 要(注意※1)	担当課/連絡先
住宅 ／ 環境 ／ 生活	定住促進奨励金 転入前に3年以上市外に居住していた方が、定住を目的として、市内に住宅を取得し転入した場合に、世帯構成の要件等に応じて最大150万円を交付します。	企画政策課 0479-62-5382
	若者世帯住宅取得奨励金 市内に住む39歳以下の方が、定住を目的として、市内事業者から新築住宅を取得した場合に、世帯構成の要件等に応じて最大100万円を交付します。	企画政策課 0479-62-5382
	旭市UIJターンによる起業・就業者等創出事業移住支援金 東京23区または東京圏に在住・在勤していた方が、市内へ住所を移し、起業・就業等した場合に、世帯員数に応じて最大100万円を交付します。(子育て世帯加算あり)	企画政策課 0479-62-5382
	住宅リフォーム補助制度 市民が市内の施工業者を利用して自ら住む住宅のリフォームを行う場合、その費用の一部を補助します。限度額20万円(対象改修費の1/10)。工事をする前にご相談ください。	都市整備課 0479-62-5895
	高齢者住宅改修費助成事業 要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者が手すりの取付けやスロープの設置の改修を行う場合、その費用の一部を助成します。限度額10万円(対象改修費の1/2) ※工事をする前にお申込ください。	高齢者福祉課 0479-62-5350
	住宅用省エネルギー設備設置助成事業 市内で自ら住む住宅に、新たに住宅用省エネルギーシステム(太陽光発電システム等)を設置する場合、その設置費用の一部を補助します。	環境課 0479-62-5328
	合併処理浄化槽設置促進事業 住宅用の単独浄化槽・汲取槽から合併処理浄化槽に変更する場合、その設置費用の一部を補助します。 ※新築は一部地域のみ対象。	環境課 0479-62-5329
就業 ／ 体験	生ごみ処理機等購入補助金 生ごみを微生物によって分解する容器(コンポスター)や、乾燥装置により消滅・減量化させる電動式機器(電動生ごみ処理機)を購入する場合、その費用の一部を補助します。	環境課 0479-62-5328
	経営発展支援事業 新たに農業を始めた方の経営発展のため、機械・施設、家畜等の導入費用を支援します。	農水産課 0479-74-3671
	経営開始資金 新たに農業を始めてから経営が安定するまで最長3年間、資金を交付します。	
	新規就農者支援事業 旭市内で新規就農した方(50歳未満)に対して、農業機械・施設の取得費用や農地を借りる費用の一部を補助します。	
	親元就農チャレンジ支援金 親元で農業を始める方を対象に最長5年間、支援金を交付します。(年間20万円)	
	転入者農業チャレンジ支援金 旭市に転入して農業法人等に雇用される方の家賃を、最長3年間補助します。(上限 月5万円)	
	市民農園の利用 自ら食べる野菜を育てる楽しみ、収穫の喜びを体験できます。(年間5千円)	
	看護学生入学支度金貸付制度 将来、看護師として旭市内の医療機関で働くことを目指している看護学生(4年制大学)に、一律40万円を貸し付けます。申込は2年生以上からも受け付けています。なお、卒業後に旭市内の医療機関で2年間、看護業務に従事した場合は、返還が免除となります。	企画政策課 0479-62-5382
就業 ／ 体験	創業支援 旭市内で創業に興味のある方や創業後間もない方に対し、創業セミナーや無料の相談窓口など、専門機関と連携した支援を行っています。	商工観光課 0479-62-5874

	空き店舗活用補助制度 市内の空き店舗を活用して事業を行う方に対し、必要となる改修費（１００万円以内）や賃借料（月額５万円以内）の一部を補助します。	
子育て／出産	出産祝金の交付 市内に１年以上前から継続して住民登録がある方で、第１子以上を養育し、第２子以降を出産して養育する父母に対し、第２子１０万円、第３子以降２０万円を支給します。	子育て支援課 0479-62-8012
	乳幼児紙おむつ給付事業 ０歳児・１歳児の乳幼児を養育している方に、月額３，０００円分の紙おむつ購入券を支給します。	
	ひとり親家庭等医療費等の助成 ひとり親家庭の経済的負担を軽減するため、保険診療の範囲内で医療費等にかかる自己負担に対して全額又は一部を助成します。	
	子ども医療費助成事業 １８歳に達した日以後、最初の３月３１日までの子ども(対象児童の婚姻等により対象外となる場合有)が医療機関（整骨院等を含む）に通院、入院した場合や院外処方せんにより保険薬局で薬を受け取った場合、保険診療の範囲内で医療費の自己負担額の全額又は一部を助成します。	
	第３子以降の保育料及び副食費の無料化(保育所・認定こども園) １８歳未満の子どもが３人以上いる家庭の第３子以降の３歳以上児の副食費と３歳未満児の保育料を無料とします。	子育て支援課 0479-62-5313
	第３子以降の保育料等補助(私立幼稚園) １８歳に達した日以後、最初の３月３１日までの子どもが３人以上いる家庭の第３子以降の給食費等に対して補助します。	教育総務課 0479-85-8617
	給食副食費の補足給付(私立幼稚園) 低所得世帯及び第３子以降（小学校３年生までの子どもの中で３番目以降）の子どもに対して、副食費を補助します（上限月額４,500円）。	
その他	第３子以降の学校給食費無償化 年齢を問わず、子どもを３人以上扶養している世帯の３人目以降の学校給食費を無償化としています。ただし、教育扶助及び就学援助費の受給世帯は対象となりません。	教育総務課 0479-62-0366
	出産・子育て応援給付金(国の出産・子育て応援交付金事業) 妊娠届出を行い、面談を実施した妊婦に対し妊娠１回につき５万円、出生届出を行い赤ちゃん全戸訪問を受けた児童１人に対し５万円を支給します。	健康づくり課 0479-63-8711
	季節性インフルエンザ任意予防接種費用の助成 季節性インフルエンザの任意予防接種費用の一部を助成します。乳幼児（生後６か月～小学校２年生まで）は１回につき１,000円を２回まで、年度末６５歳になる人（定期接種対象者を除く）は１回のみ２,000円、障がい者（小学校３年生～６４歳の定期接種対象外の内部障がい者）は１回のみ１,000円、妊婦（該当する妊婦）は１回のみ１,000円を助成します。	健康づくり課 0479-63-8766
	住宅探し 旭市での住宅探しをお手伝いします。お気軽にお問い合わせください。	(一社)千葉県宅地建物取引業協会 北総支部 0479-63-0299

注意 ※１ 全ての制度には要件があります。詳細は必ず担当へお問い合わせください。



旭市学校再編基本方針の策定経緯

将来を展望した旭市立小・中学校について、旭市の子どもたちにとってより望ましい教育環境を提供できるよう、平成28年より「学校のあり方検討委員会」、令和元年より「旭市学校再編計画策定委員会」設置し、学校の再編について検討してきました。そして、令和3年6月に「旭市学校再編基本方針」を発行し、地域の合意形成を図りつつ学校の再編を進めていきます。

(1) 学校再編基本方針策定までの流れ

年度	内容	
H28	旭市学校のあり方検討委員会設置 第1～3回旭市学校のあり方検討委員会会議	(2)
H29	第4～6回旭市学校のあり方検討委員会会議 旭市学校のあり方検討委員会提言書提出	
H30	旭市人口推計分析業務委託 ※学校再編計画策定委員会の設置に向けた準備・協議等	
R元	旭市学校再編計画策定委員会設置 第1～8回旭市学校再編計画策定委員会会議	(3)
R2	第9～13回旭市学校再編計画策定委員会会議 パブリックコメントを実施(素案)(R3.1.15～1.29) 学校再編計画の報告書を市長に提出	
R3	旭市学校再編基本方針を発行(6月) 旭市校長会に説明(12月) 旭市PTA連絡協議会に資料配布(1月)	
R4	旭市PTA連絡協議会等の関係機関に説明(5月～2月) (仮称)千潟地域小学校の再編 ・各小学校で保護者説明会の開催(11月・12月) ・保護者アンケートの実施・集計(12月～1月) ・地域説明会の開催(2月)	

(2) 旭市学校のあり方検討委員会（H28.7～H30.3）

①委員構成

学識経験者	3 名
地域住民代表（各中学校区）	5 名
校長代表	4 名
保護者代表（各中学校区）	5 名
教育委員会が必要と認める者	1 名
合計	18 名

②会議開催

	開催日及び場所	主な議題
第 1 回	H28.7.20 旭市海上支所	会議の運営方法について 検討委員会設置の経緯について
第 2 回	H28.11.21 旭市海上支所	児童生徒数・学級数について 学校の現状について
第 3 回	H29.2.16 海上公民館	近隣自治体の学校の適正規模の基準について 小学校中学校の適正規模について
第 4 回	H29.8.8 海上公民館	小中学校の適正配置について 意見交換
第 5 回	H29.10.12 海上公民館	第 4 回会議における意見内容の確認について 小中学校の適正配置について
第 6 回	H30.1.30 海上公民館	提言書（案）について
	H30.3.16 教育長室	旭市学校のあり方検討委員会の提言書を教育長に提出

③提言書の概要

【適正規模】 小学校、中学校ともに 12～18 学級

- ・小学校は多様な考えの中で社会性や協調性を培いお互い切磋琢磨できる環境
- ・中学校は様々な人間関係に配慮した学級編成や教科指導を充実させる教員配置、部活動や学校行事において切磋琢磨する環境

【適正配置】 小学校、中学校ともに 12～18 学級を念頭に配置を検討していく

- ・ただし、単に学校の規模だけでなく学校をとりまく様々な現状や児童生徒数の将来予測など長期的な視点から良好な教育環境と適正規模を安定的に維持できることを念頭に置く必要がある

【検討を進めるにあたって】

- ・児童生徒数の将来推計や学校施設の健全性を踏まえ、児童生徒や保護者、地域からの期待に応えられる魅力的な学校とするように努める。また統合により児童生徒への配慮、保護者や地域の方々へ丁寧な説明を行い、十分に理解を得られるように努める。

(3) 旭市学校再編計画策定委員会 (R元.7～R3.3)

①委員構成

副市長	1名
教育委員	1名
学識経験者	2名
地域住民を代表する者	1名
保護者を代表する者	2名
公募による市民	1名
市職員	3名
合計	11名

②会議開催

	開催日及び場所	主な議題
第1回	R元.7.29 旭市役所	市内の学校の現状について 行政施設の管理計画等について
第2回	R元.10.2	市内小中学校4校の視察
第3回	R元.10.30 海上公民館	再編例の提示、説明 再編計画の方向性について
第4回	R元.11.26	香取市立山田小学校の視察
第5回	R元.12.19 海上公民館	学校の改築事業費等について 再編パターン等について
第6回	R2.1.29	成田市、佐倉市の視察
第7回	R2.2.18 海上支所	第5回会議の再編パターンについて 学校再編パターンについての意見のとりまとめ
第8回	R2.3.27 旭市役所	市内の学校施設と地域の状況等について 中学校の再編計画案について
第9回	R2.6.26 海上支所	児童生徒数と部活動の状況について 学校再編計画案について
第10回	R2.7.31 千潟公民館	学校施設の活用について 学校の再編計画案について
第11回	R2.10.2 海上支所	学校施設の建築費用について 学校の再編計画案について
第12回	R2.11.2 海上公民館	第一中学校と第二中学校の比較 学校の再編計画案について
第13回	R3.2.12 海上支所	パブリックコメントの意見について 旭市学校再編計画（案）の修正案について
	R3.3.23 旭市役所	学校再編計画の報告書を市長に提出

【参考】干潟中学校敷地の活用を検討した経緯



【参考】成田市立下総みどり学園

- ・全校生徒数：375人（R5）
- ・敷地面積：39,631㎡

【検討①】敷地の活用

- 立地的に地域の中心にある
- 敷地が広い
- 土砂災害警戒区域に挟まれている
- 校舎が古く建て替えが必要
- 統合小で活用する場合、中学校の移転を待つ必要がある

干潟地域のみで小中一貫にした場合の児童生徒数の推移・推計

	2019 R01	2020 R02	2021 R03	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	2027 R09	2028 R10	2029 R11
1年生	60	31	48	40	39	31	30	28	25	31	20
2年生	48	60	31	47	41	39	31	30	28	25	31
3年生	51	48	59	31	47	41	39	31	30	28	25
4年生	60	54	49	59	32	47	41	39	31	30	28
5年生	52	60	55	49	58	32	47	41	39	31	30
6年生	46	53	60	53	49	58	32	47	41	39	31
(中1) 7年生	45	41	49	56	44	49	58	32	47	41	39
(中2) 8年生	44	44	40	49	56	44	49	58	32	47	41
(中3) 9年生	43	44	45	41	49	56	44	49	58	32	47
合計	449	435	436	425	415	397	371	355	331	304	292

旭市が設定する小学校1学年の児童数の下限

1学年20人程度

【理由】

- ・単学級となっても、ある程度のグループ活動が可能となるため。

旭市が設定する中学校1学年の学級数の下限

1学年2学級以上

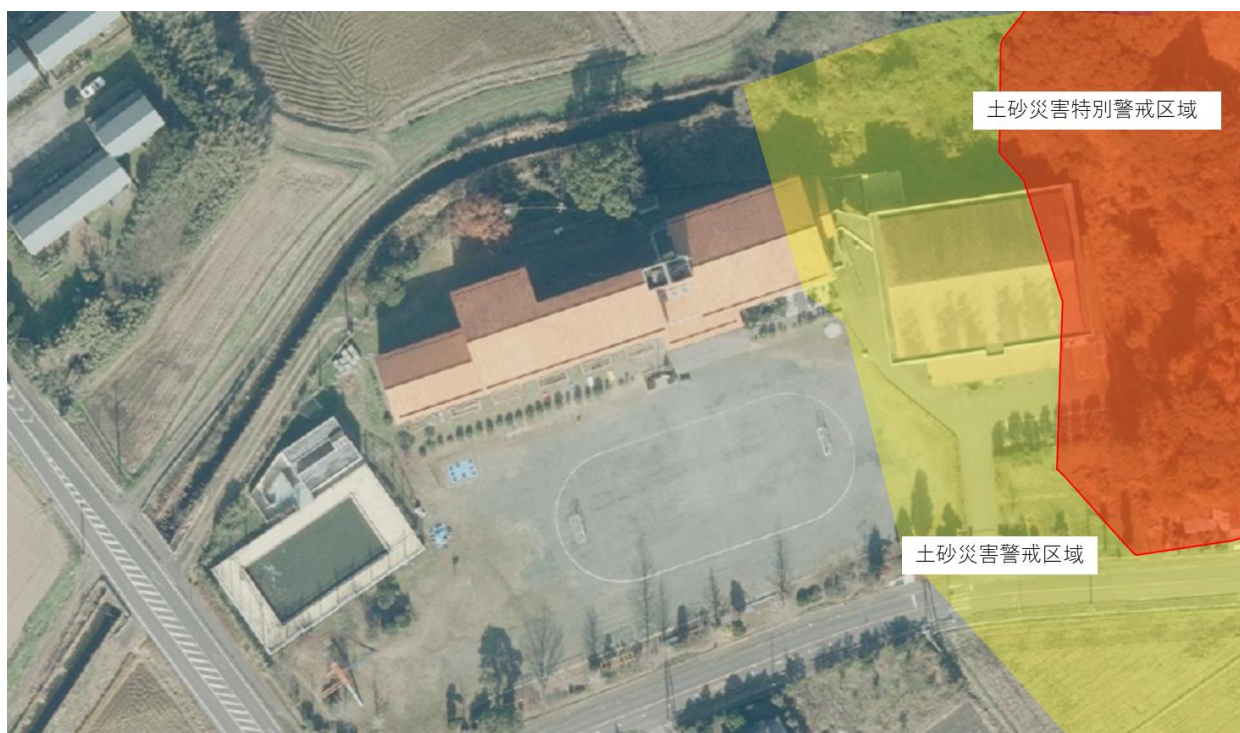
【理由】

- ・人間関係の固定化を避け、生徒の多様性に対応できる。
- ・専門教科数以上の教員数の確保ができる。

【検討②】小中一貫

- 立地的に地域の中心にある
- 迎へのしやすさ・安心感がある
- 7～9年生（中学生）で単学級が発生し基本方針の下限を下回る
- 中学校の規模は変わらないため、部活動などの制約が解消されない

古城小学校 土砂災害対策について



【現在の状況】

- ・ 令和5年3月 千葉県北部林業事務所職員と現況を確認。
今後の対策については、法面の除草後に検討。



体育館東側法面



体育館北側法面

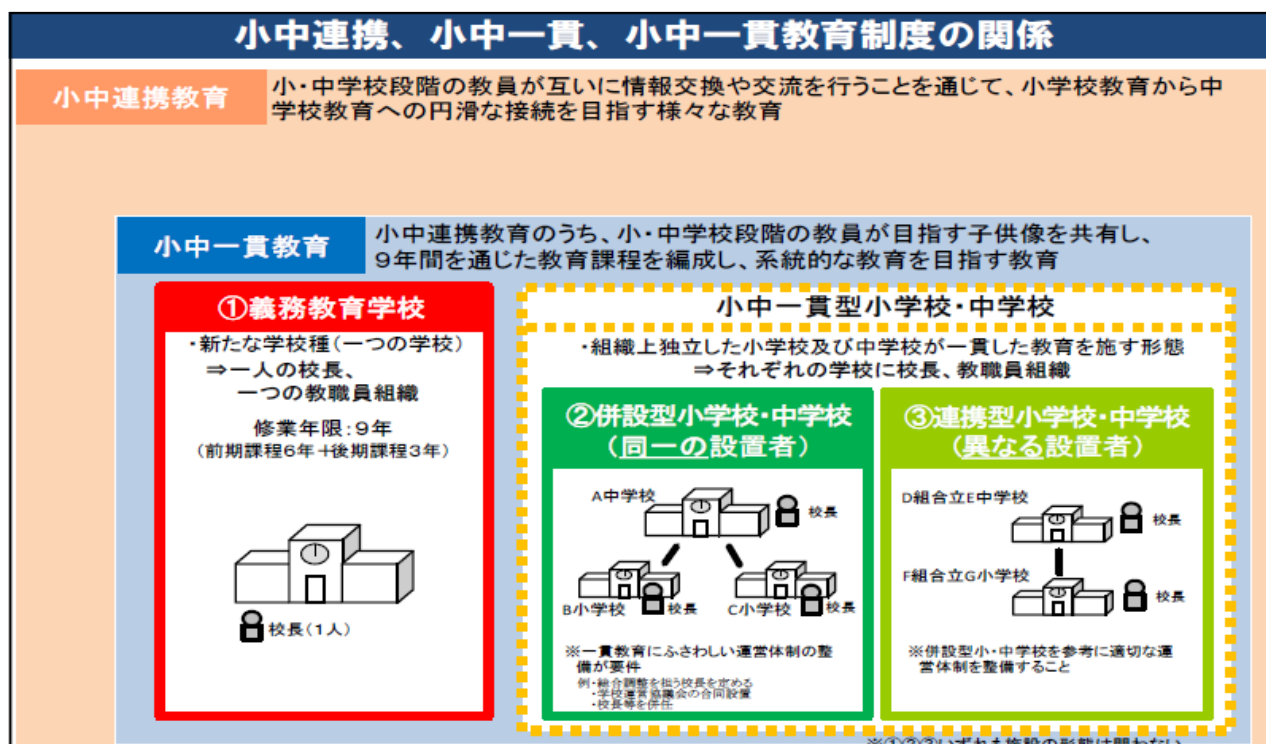
【今後の対応】

- ・ 令和6年度 法面の除草を行い、法面の状況が確認できるようにする。
その後、再度北部林業事務所と対策を検討。

小中一貫教育・義務教育学校について

(1) 小中一貫教育とは

小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育



(4) 小中一貫教育のメリット、デメリット

【メリット】

- ・ 長期的な教育が可能
- ・ 中一ギャップの解消
- ・ 幅広い年齢層での交流が可能

【デメリット】

- ・ 人間関係の固定化
- ・ 小学校高学年のリーダーシップが養われない

(5) 県内導入例

義務教育学校

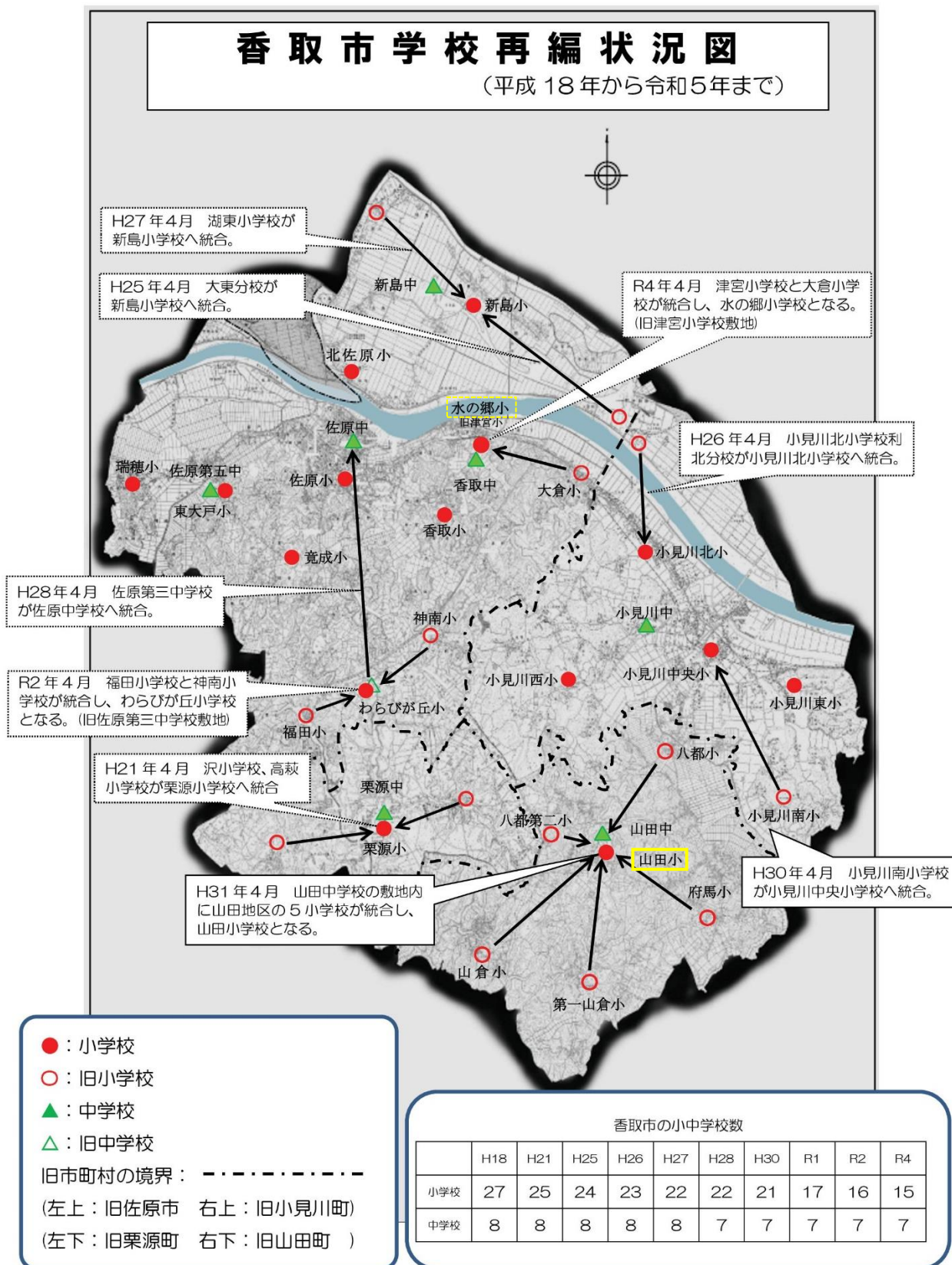
- ・ 市川市立塩浜学園
- ・ 成田市立下総みどり学園
- ・ 成田市立大栄みらい学園
- ・ 八千代市立阿蘇米本学園

小中一貫型小学校・中学校

- ・ 市原市立加茂学園
- ・ 鴨川市立長狭学園
- ・ 流山市立おおたかの森小中学校
- ・ 館山市立房南学園
- ・ 君津市立周南小中一貫教育校（施設分離型）

事例紹介（香取市立山田小学校）

Ⅰ．香取市学校再編状況（香取市学校等適正配置計画実施プラン（第二次改訂版）抜粋）



2. 山田小学校の概要

- ・平成25年度より旧山田町5小学校で検討開始
- ・平成31年4月開校（敷地面積：24,819 m²）

児童生徒数の実績・推計（香取市ホームページより）

学校名		R5	R6	R7	R8	R9	R10
山田小学校	児童数	301	278	270	256	238	210
	学級数	11	11	11	11	10	9
（参考） 山田中学校	生徒数	168	174	166	171	156	163
	学級数	6	6	6	6	6	6

※令和5年度は実績値（R5.5.1現在）

※令和6年度以降は住民基本台帳人口（R5.4.1現在）

3. スクールバスについて

◇スクールバスの種類

種類	SHORTBODY	種類	LONGBODY	種類	SUPERLONGBODY
定員	25人乗り	定員	29人乗り	定員	33人乗り
台数	4台	台数	2台	台数	7台
色	ライジング・ホワイト/シルバー・ジュ	色	ライジング・ブルー/シルバー・ジュ	色	モイストグリーン/シルバー・ジュ
サイズ	全長：6,245mm	サイズ	全長：6,990mm	サイズ	全長：7,730mm
	全幅：2,010mm		全幅：2,010mm		全幅：2,010mm
	全高：2,645mm		全高：2,645mm		全高：2,645mm
イメージ		イメージ		イメージ	
					
※ドアはスイングドアになります。		※ドアはスイングドアになります。		※ドアはスイングドアになります。	

- ・乗車人数、ルートを決まえばバスの大きさを決定し、市で購入（国の補助金を活用）して運行委託
- ・スクールバス利用対象児童：学校から自宅までの通学距離が2km以上となる児童

※利用料金は無料

- ・運行本数

登校時：1便 下校時：2便 計3便運行 ※一斉下校の際は1便

- ・乗務員：運転手、添乗員1名（スクールバスの運行委託業者が手配）

- ・時刻表：別紙のとおり

- ・バスルート、バス停の決定方法：準備委員会の通学部会で決定

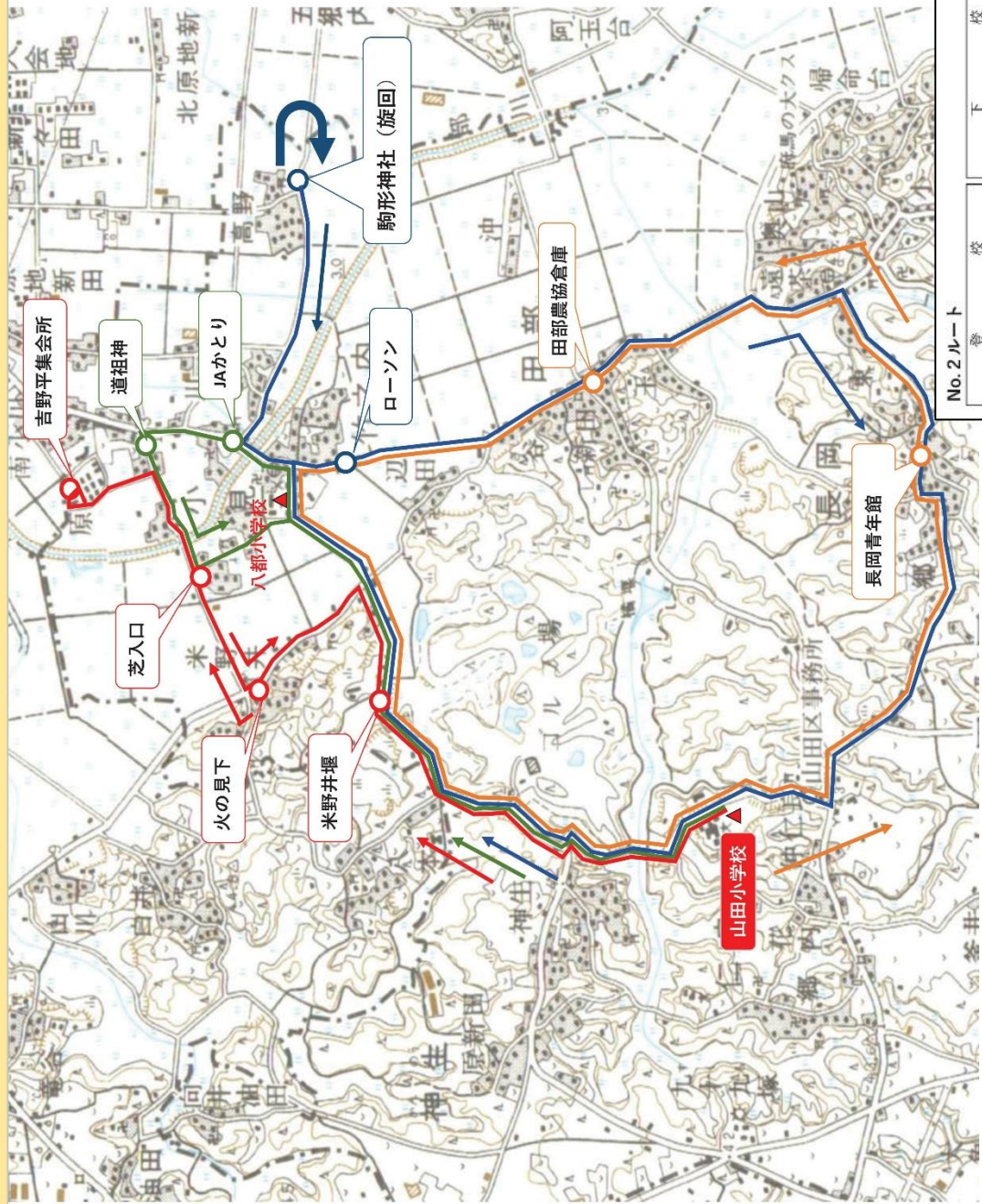
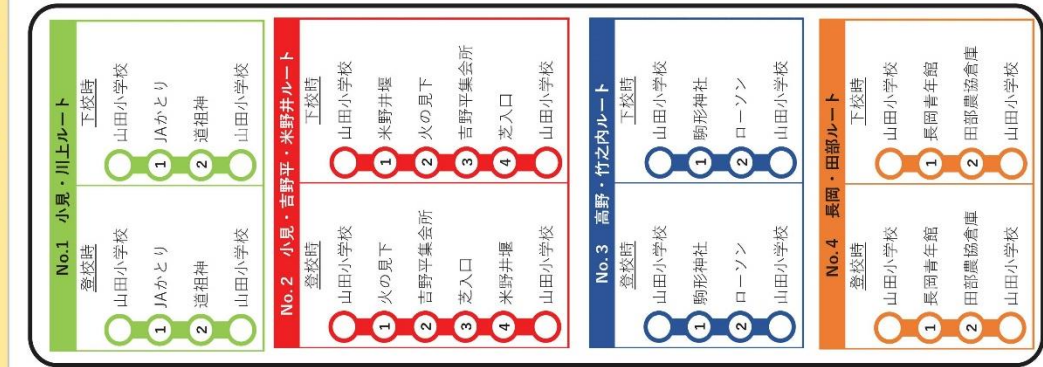
- ・欠席の連絡方法：同じバス停に乗る人に伝えるか保護者がバス停まで行って伝える。

連絡が間に合わない場合もバスは定時に出発する。乗降確認は名簿でチェックしている。

児童の降車後、運転手と添乗員が清掃作業をしつつ全座席の確認をしているため、降ろし忘れは無い。

- ・下校時間の連絡：毎月学校から下校時間を通知

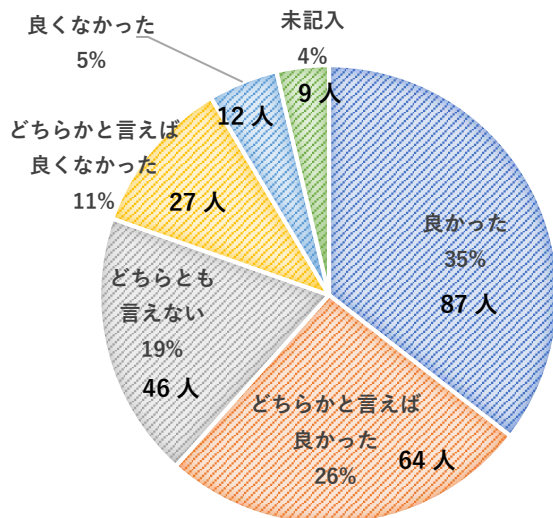
No1～4 八都小学区・府馬小学区 方面



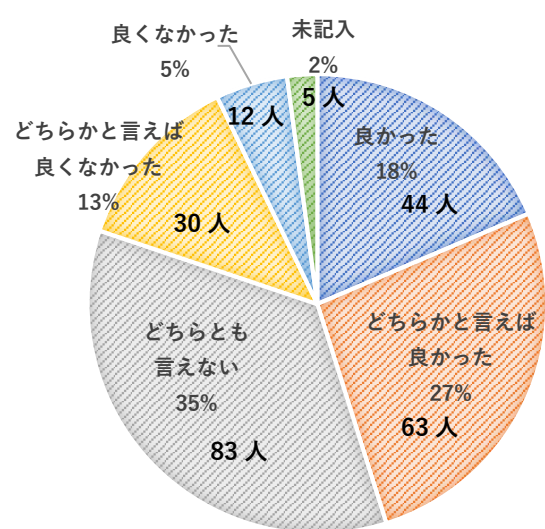
4. 山田小学校 統合後のアンケート結果（抜粋） 調査期間：R元.12.6～12.16 回答数：237

【質問】学校が統合したことについて、どのように思いますか。

〔児童〕

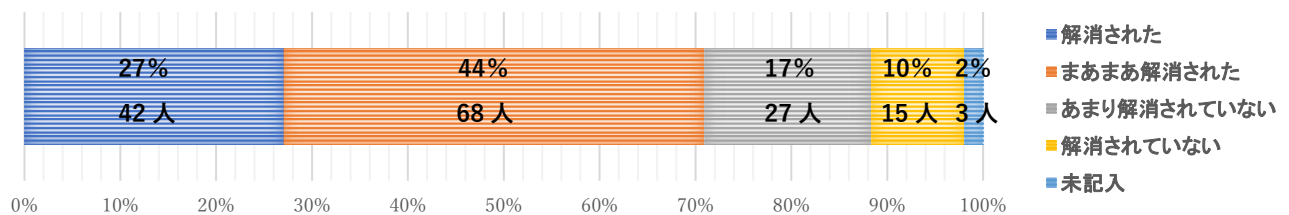


〔保護者〕



【質問】統合に向けて心配していたことは、解消されましたか。 回答数：155 世帯

〔具体的な心配事〕友人関係・環境変化・学校運営・通学（バス・徒歩）・保護者交流



【質問】統合前と比べて、どのように思いますか。

	多くの友達と触れ合えている	学習意欲が高まった	社会性を身につける機会が増えた
そう思う	164	34	58
どちらかと言えばそう思う	60	88	88
どちらとも言えない・分からない	9	69	66
どちらかと言えばそう思わない	0	16	12
そう思わない	2	26	9

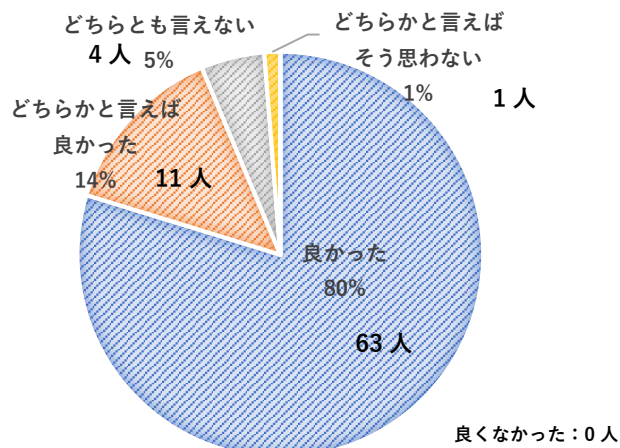
【自由意見（抜粋 概要）】

良かったこと	悪かったこと
・新しい学校で生活しやすくなった ・多くの人と触れ合い、学ぶ機会が増えた ・考え方の幅が広がった、社会性が高まった ・競争心が芽生え切磋琢磨できている ・先生方も個性にあわせて対応してくれる ・規模が大きくなり学校との距離感を感じるが学校開放で見る機会があり安心できる ・中学と同じジャージになって経済的 ・部活を選べるようになった。運動会でマーチングが楽しみと言っていた	・子どもたちの顔と名前が覚えきれない ・一人ひとりとの付き合い方が難しくなった ・学校との距離感を感じて少し寂しい ・学校との連絡が取りづらい ・色々な地域行事が無くなってしまった ・人数が多くなったため意見が言いづらい ・別学年との交流が減ってしまった ・バス通学で体力の低下が気になる ・PTA 活動への関わりが薄くなった ・小、中が同一敷地にあるメリットが見えない

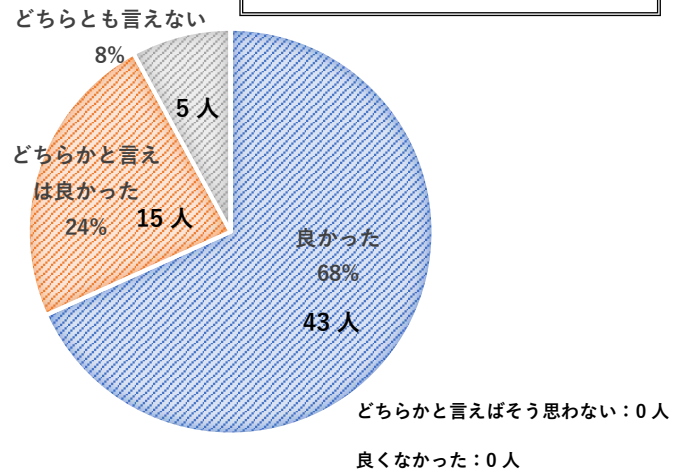
5. 水の郷小学校 統合後のアンケート結果（抜粋） 調査期間：R4.10.3～10.17 回答数：63

【質問】 学校が統合したことについて、どのように思いますか。

〔児童〕

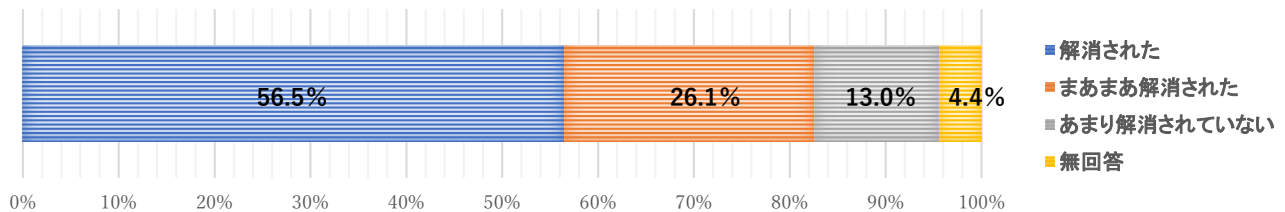


〔保護者〕



【質問】 統合に向けて心配していたことは、解消されましたか。 回答数：155 世帯

〔具体的な心配事〕 友人関係・環境変化・学力低下・保護者交流



【質問】 統合前と比べて、どのように思いますか。

	多くの友達と触れ合えている	学習意欲が高まった	社会性を身につける機会が増えた
そう思う	68.2%	22.2%	41.3%
どちらかと言えばそう思う	25.4%	22.2%	34.9%
どちらとも言えない・分からない	3.2%	39.7%	12.7%
どちらかと言えばそう思わない	0%	6.3%	4.7%
そう思わない	1.6%	6.3%	3.2%

【自由意見（抜粋 概要）】

良かったこと	悪かったこと
・ 友達が増えて楽しそう ・ 人数が増えてよい刺激になっている ・ それぞれの地域の行事を取り入れて楽しみを増やしてほしい ・ 守ってくれる友達ができて本人も強くなった ・ PTA 役員を無理にやる必要が無くなった ・ 統合前の交流会のおかげでスムーズに慣れることができた ・ 今までできなかった遊びやスポーツができるようになった ・ 新しいルールをみんなで作ることが新鮮に感じた。意見をしやすい	・ 行事が削減されたり、内容が大きく変更された ・ 保護者交流がまだ少なく誰かわからない ・ 体操服の指定があり費用がかかった ・ 黄色い帽子は無くなったほうがよかった ・ 香取小も一緒に統合したかった ・ 先生がガラッと変わって少し寂しい ・ 学校との距離感を感じて少し寂しい ・ バス通学で車酔いをする ・ 運動会の全校リレーが無くなって残念 ・ 学校の名前、校歌が変わったこと、バスの都合で下校時間が早くなり、休み時間が減ったことは本人は嫌な様子

事例紹介（学校の跡地活用）

Ⅰ．近隣市町村の学校跡地活用事例

市町名	旧学校名	活用概要	運営者
多古町	旧常盤小学校	グランピング施設（TACO GLAMP）	(株)HAMIRU [市川市]
東庄町	旧東城小学校	ドローン資格教習所	(一社) 国際ドローン協会 [東京都]
	旧神代小学校	老人ホーム	(株)プリーズ [東庄町]
	旧石出小学校	学び・創造・情報発信施設	(一社) オンラア未来会議 [東庄町] アカデミックリソースガイド(株) [横浜市]
銚子市	旧銚子西高等学校 旧猿田小学校	スポーツ合宿所 さるだ学集館	(株)銚子スポーツタウン [銚子市]
	旧銚子六中学校	地域活性イベント施設	六中地域活性化委員会 [銚子市]
横芝光町	旧南条小学校	キャンプ場（CAMPiece 横芝光）	(株)運動会屋 [東京都]
山武市	旧日向小学校	馬事学校	(株)SBMplus [東京都] (株)馬事学院 [山武市]
	旧豊住中学校	地域交流施設	成田市施設
成田市	旧東小学校	地区運動施設・パークゴルフ場	成田市施設
	旧小御門小学校	児童発達支援・放課後等デイサービス 人工光型農場	(株)フォーリーフナゲット [成田市] (株)クローバーホーム [成田市]
	久住第二小学校	簡易宿泊所（Ready to Flight!NARITA）	リオン不動産(株) [東京都]

【跡地活用までの主な流れ】

- ①活用方法の検討（立地・築年数など）
- ②情報発信・サウンディングの実施（市ホームページ・マッチング事業など）
- ③活用希望者から事業提案
- ④提案内容の検討
- ⑤活用決定

※①③④のいずれかで、地域の意向調査を実施

※実際の事務スケジュールは旭市役所関係部署と調整し決定する

2. 未来につなごう みんなの廃校プロジェクト

文部科学省が平成22年より立ち上げたプロジェクト。

全国の廃校施設情報の公表等を通じて、廃校を「使ってほしい」地方自治体と、廃校を「使いたい」事業者等への情報発信・マッチングを行っている。

文部科学省「廃校活用事例集」抜粋



少子化に伴う児童生徒数の減少等により、これまでに毎年約450校程度の廃校施設が発生しており、現存する廃校施設の約8割が様々な用途に活用されています（令和3年5月1日現在。廃校施設等活用状況実態調査結果より）。

廃校は、地方公共団体にとって貴重な財産であり、地域の実情やニーズを踏まえて積極的に有効活用していくことで、維持管理費や公共施設の施設整備コストの縮減、地域コミュニティの維持・活性化や産業振興など、様々な効果が期待されます。

また、廃校を活用しようとする企業等にとっても、①まとまったスペースの活用が可能、教室毎に間仕切られた使い勝手のいい空間、静かな環境といった学校の「立地・建物特性に係るメリット」、②既存施設の活用による早期事業着手やコストダウンといった「既存施設活用に係るメリット」、③話題性やメディアからの注目、地域に根ざした活動が可能といった「元学校ならではのメリット」など様々なメリットがあります。

文部科学省では、平成22年度より「～未来につなごう～みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、廃校施設の活用推進に取り組んできたところです（以下参照）。

このたび、本プロジェクトの一環として、幅広い用途に活用されている全国各地の廃校活用事例を集めた事例集を作成しました。本事例集では、廃校活用に至った経緯や廃校施設ならではのメリット、効果等について紹介しています。廃校は、アイデア次第で、どのような施設にも活用できます。本事例集が、今後、廃校活用を検討いただく上で、その一助になれば幸いです。

みんなの廃校プロジェクトの御紹介

文部科学省では、廃校活用推進のため、全国各地の優れた活用事例の紹介や、活用用途を募集している廃校施設情報の公表等を通じて、廃校を「使ってほしい」地方公共団体と、廃校を「使いたい」事業者等への情報発信・マッチングを行っています。



マッチング・情報提供



取組 ① 特徴的な廃校活用事例を知り・学べ、地方公共団体から活用を希望する廃校のPRを行うイベントを開催

【イベント概要】 地方会場もしくはオンラインにて開催

- 行政説明
- 事例発表（廃校を活用している自治体・企業等からの発表）
- 自治体からのPRタイム（廃校を「使ってほしい」自治体が、施設の概要やアピールポイント等について説明）

文部科学省HPにおいて、地方公共団体から掲載希望のあった活用用途を募集している廃校施設を公表

【主な掲載情報】

- 学校名
- 住所・アクセス
- 面積
- 建物構造、竣工年
- 募集内容、条件
- 写真、平面図
- 問い合わせ先



取組 ② 廃校活用に至った経緯や改修コスト等の情報を含む廃校活用事例集（本冊子）を作成、文部科学省HPにおいて公表

取組 ③ 廃校活用に利用可能な各省庁の支援制度を取りまとめ、文部科学省HPにおいて公表（本事例集p.51～52参照）

全国の 廃校活用事例紹介



北海道 ・ 東北

- | | | |
|-------------|----------|------------|
| 1 北海道／小清水町 | せんべい工場 | [旧北陽小学校] |
| 2 青森県／大鰐町 | 生ハム工房 | [旧大鰐第三小学校] |
| 3 岩手県／西和賀町 | 介護施設 | [旧越中畑小学校] |
| 4 宮城県／加美町 | 音楽技能修得施設 | [旧上多田川小学校] |
| 5 秋田県／由利本荘市 | 木のおもちゃ館 | [旧鮎川小学校] |
| 6 山形県／高島町 | 大人の学び舎 | [旧時沢小学校] |
| 7 福島県／三春町 | 福祉型農業施設 | [旧沢石小学校] |

関東

- | | | |
|-------------|------------------|------------|
| 8 茨城県／行方市 | 体験型農業テーマパーク | [旧大和第三小学校] |
| 9 栃木県／那珂川町 | 製材工場、バイオマス発電所 | [旧馬頭東中学校] |
| 10 群馬県／みどり市 | 社会教育施設 | [旧福岡西小学校] |
| 11 埼玉県／小鹿野町 | 映画・テレビ・CM撮影等のロケ地 | [旧三田川中学校] |
| 12 千葉県／鋸南町 | 都市交流施設・道の駅 | [旧保田小学校] |
| 13 東京都／北区 | 文化芸術活動拠点 | [旧豊島北中学校] |
| 14 神奈川県 | ロボット開発のブレ実証フィールド | [旧新磯高等学校] |

中部

- | | | |
|------------|-----------------|------------------------|
| 15 新潟県／長岡市 | 障害福祉サービス事業所 | [旧島田小学校] |
| 16 富山県／立山町 | IT交流施設 | [旧谷口小学校] |
| 17 石川県／珠洲市 | 大学の教育・研究拠点 | [旧小泊小学校] |
| 18 福井県／若狭町 | 漁村体験施設 | [旧岬小学校・
三方中学校岬分校] |
| 19 山梨県／身延町 | ドローン開発・研究等施設 | [旧中富中学校] |
| 20 長野県／飯綱町 | 創業交流施設、自然体験交流施設 | [旧三水第二小学校・
旧牟礼西小学校] |
| 21 岐阜県／美濃市 | 和紙用具ミュージアム | [旧片知小学校] |
| 22 静岡県／島田市 | グランピング施設 | [旧湯日小学校] |
| 23 愛知県／新城市 | レストラン | [旧菅守小学校] |



近畿

24	三重県／四日市市	子育て支援等複合施設	[旧東橋北小学校]
25	滋賀県／高島市	菌床キノコ生産工場	[旧今津西小学校]
26	京都府／福知山市	いちご農園、農業体験型施設	[旧中六人部小学校]
27	大阪府／堺市	大学	[旧堺市立商業高等学校]
28	兵庫県／養父市	スナックリング製造工場	[旧浅野小学校]
29	奈良県	県の庁舎	[旧耳成高等学校]
30	和歌山県／海南市	スポーツセンター	[旧第一中学校]

中国 ・ 四国

31	鳥取県／八頭町	コミュニティ複合施設	[旧隼小学校]
32	島根県／出雲市	カワハギ陸上養殖施設	[旧光中学校]
33	岡山県／笠岡市	シェアアトリエ	[旧大島東小学校]
34	広島県／三原市	認定こども園	[旧久井南小学校]
35	山口県／周防大島町	サテライトオフィス	[旧和田小学校]
36	徳島県／三好市	カフェ＆ホステル	[旧出合小学校]
37	香川県／三木町	希少糖研究研修センター	[旧小養小・中学校]
38	愛媛県／新居浜市	生涯活躍のまち拠点施設	[旧若宮小学校]
39	高知県／室戸市	水族館	[旧椎名小学校]

九州 ・ 沖縄

40	福岡県／宮若市	AI研究開発施設	[旧吉川小学校]
41	佐賀県／佐賀市	地域交流拠点・オフィス・合宿施設	[旧富士小学校]
42	長崎県／西海市	放課後児童クラブ	[旧松島小学校]
43	熊本県／菊池市	酒蔵	[旧水源小学校]
44	大分県／国東市	非破壊検査機器の開発・製造等拠点	[旧武蔵西小学校]
45	宮崎県／美郷町	ウナギ研究所・博物館	[旧渡川小学校]
46	鹿児島県／南さつま市	市役所出張所、診療所等の複合施設	[旧笠沙小学校]
47	沖縄県／うるま市	地域交流拠点施設	[旧浜中学校]

廃校活用の基礎情報

- 49 廃校発生数・活用状況について
- 50 廃校活用に関する手続について
- 51.52 廃校活用にあたって利用可能な主な国庫補助制度



都市交流施設・道の駅として活用

都市交流施設・道の駅保田小学校

施設の基本情報

建築年度	1967(昭和42)年度
活用開始年度	2015(平成27)年度
現在の施設名	都市交流施設・道の駅保田小学校
活用事業者名	鋸南町(転用)
改修費用	総額約13億円 (うち自治体負担額:約4.9億円) (うち補助金額:約8.1億円)
活用した補助金等の名称	農山漁村活性化プロジェクト 支援交付金・農山漁村振興 交付金(農林水産省)、 千葉県公共施設再生可能 エネルギー等導入支援補助金 (千葉県)、 公衆無線LAN環境整備事業 補助金(千葉県)、 観光地魅力アップ整備事業 補助金(千葉県)
施設の規模	14,236㎡他



施設の概要

「小学校」の名前がつく全国初の道の駅であり、校舎棟は飲食・物販施設、簡易宿泊施設、公衆トイレ等を備え、体育館は直売所として活用している。

廃校の施設は解体せずリノベーションしていることで、地域住民の思い出の詰まった小学校としての面影が残っている。

廃校活用までの経緯

鋸南町では、少子化に伴い、町内に3つあった小学校を2014(平成26)年3月までに1校に集約する計画を立て、学校再編を進めてきた。また、2010(平成22)年に鋸南町総合計画を策定するに当たり、学校再編後の廃校の跡地利用を検討した際に、校舎をリノベーションし、直売所や商業機能等を併せもった施設にできないかという新たな道の駅構想の提案がなされた。

これらを踏まえて、2012(平成24)年度からプロジェクトが始動。過疎化や少子高齢化に伴い地域活力の減退が著しい中で、町内に人と仕事を呼び込み、農林水産物の販売や6次産業化などが地域活性化の起爆剤となるよう、施設を活用して新たなコミュニティの核を作る都市交流施設・道の駅プロジェクトへと進化した。



廃校活用のメリット・効果

2015(平成27)年12月の開業から2021(令和3)年度までの施設全体の累計集客数は、レジ通過者数で約160万人となっている。また、2021(令和3)年度までの施設全体の累計売り上げは約32億7千万円となっており、これは当施設の建設事業に支出した約13億円のおよそ2.5倍に相当する。

また、開業から2021(令和3)年度までの指定管理者及びテナントを含めた平均雇用者数は53名で、うち町内雇用者数は26名と約半数であり、地域の新たな雇用の場としても寄与している。

雇用の創出、地域経済の活性化の場となり、大きな役割を担う施設として効果をもたらしている。

活用開始までの課題・苦労したこと

プロジェクトの基本調査の段階では、学校をリノベーションし、公共部分と商業部分が複合する施設の設計が課題となり、また、これらが事業の肝であり、いかにして知識とアイデアをもった最良な設計者を選定するかが最も考慮した点である。優良な設計者の選定には、選考過程を整えることが重要であると考え、公募型プロポーザルとして著名な建築家の方々に審査員を迎えて一般公募を実施し、二次審査は一般公開とした。その結果、多くの問い合わせが寄せられ、また、プロポーザルの最終結果は新聞や雑誌等にも取り上げられたことが、本事業が注目されるきっかけになったと考えている。

施設詳細URL <https://hotasho.jp>

活
用
用
途

● その他(複合商業施設)

スポーツセンターとして活用

海南スポーツセンター

施設の基本情報

建築年度	1977(昭和52) 年度
活用開始年度	2015 (平成27) 年度
現在の施設名	海南スポーツセンター
活用事業者名	海南市 (2019 (令和元) 年度からは 指定管理者が管理) (転用)
改修費用	総額約4.9億円 (うち自治体負担額: 約3.1億円) (うち補助金額: 約1.8億円)
活用した補助金 等の名称	社会資本総合整備交付金 (国土交通省)、 がんばる地域交付金(内閣府)、 スポーツ振興くじ助成金 (独立行政法人日本スポーツ 振興センター)
施設の規模	(土地) 11,997.70㎡ (建物) 1,615.50㎡



活
用
用
途

● 宿泊施設
● 社会体育施設

施設の概要

フットサルコート、ジュニアサッカーコート、体育館、簡易宿泊施設等が一体となった複合型のスポーツ施設として活用。旧特別教室棟を改修し、宿泊室や和室、会議室、体育室、ミーティングルームを設け、シャワー室や洗濯乾燥機も備えているほか、運動場は芝生を敷き、ジュニアサッカーコートを設けた。スポーツ少年団や学校の部活動・サークル等のスポーツ合宿等で利用することができる。

廃校活用までの経緯

2010(平成22)年度に廃校になった旧海南市立第一中学校については、2012(平成24)年度までの2年間は近接する黒江小学校が耐震工事を行う間の仮校舎として使用していた。それ以降の活用についても市として検討を行い、廃校周辺が津波被害が想定される地域であり地域住民の避難が可能となる施設とするなど減災への対策が必要であったこと、地元との意見交換会での「若者が集まるフットサル場のような施設を作ってほしい」といった要望、国体の開催を控え市民のスポーツに対する関心を高めるとともに全県的な宿泊施設不足への対応の必要性等を勘案し、跡地利用の担当部署と協議を進め、宿泊機能を備えたスポーツセンターとして活用することとなった。

廃校活用のメリット・効果

地域のシンボルともいえる学校施設を活用することで、廃校に伴い懸念された周辺地域の活力低下を防ぐことができる。また、学校が地域に果たしてきた避難施設や施設の地域開放といった役割を引き継ぐとともに、既存の体育館を核として可能な限り市民が望む施設等を整備することで、市民サービスの向上や市全体の活性化等を図ることができた。

施設の案内パンフレットを作成し関係団体に送付するなど情報発信を行い、現在では年間約5万人の方々に利用いただいているとともに、アンケート調査の結果からも利用者にとって満足度の高い施設となっていることがうかがえる。さらに、2019(令和元)年度からは指定管理者による管理・運営に移行し、合宿等のプランニングやスポーツ教室の実施等、効率的な管理やサービスの向上を図ることができている。

活用開始までの課題・苦労したこと

旧海南市立第一中学校跡地は、国道42号線沿いという利便性の高い場所にあり、商業施設や住宅地としての活用も検討したが、海辺に近く津波等の被害が想定される地域であるため避難ビル整備の必要性があり、また新施設を再建築するには敷地内に埋設されている大型排水管への対応が必要になるなど財政負担を考慮する必要があった。

そのため、屋上に津波避難スペースを設けた宿泊施設に改修するとともに、設置要望が多かったフットサルコート等として整備することで、地域の安全性の確保を図り、かつ維持管理費の多くは使用料で賄うことができる施設とすることを考えた。施設整備に当たっては、社会資本総合整備交付金やスポーツ振興くじ助成金を活用して、財政負担の軽減に努めた。

施設詳細URL https://www.city.kainan.lg.jp/shiseijoho/shiyakusho/sisetusyosai/sports_center.html

コミュニティ複合施設として活用

隼 Lab. (はやぶさらぼ)

活 用 用 途

● 企 業 や 法 人 等 の 施 設

● 創 業 支 援 施 設

● そ の 他 (コ ミ ュ ニ テ ィ 複 合 施 設)

施設の基本情報

建築年度	1993 (平成5) 年度
活用開始年度	2017 (平成29) 年度
現在の施設名	隼Lab. (はやぶさらぼ)
活用事業者名	(株)シーセブンハヤブサ (無償貸与)
改修費用	総額約1.8億円 (うち自治体負担額: 約9,000万円) (うち補助金額:約9,000万円)
活用した補助金 等の名称	地方創生拠点整備交付金 (内閣府)
施設の規模	2,263.15㎡



施設の概要

施設の1階には、カフェやショップ、看護協会、地域福祉組織等が入居し、地域住民に開かれたコミュニティ空間を整備。2・3階には、コワーキングスペースやシェアオフィス等、サテライトオフィスを意識したビジネス空間を設計・整備。建物前面には芝生グラウンドを整備し、体育館の貸出利用も行っている。また、従前のグラウンド用地へのコンテナオフィス設置や駐車場増設等、隼Lab.オープン後も追加整備を実施している。

廃校活用までの経緯

2015 (平成27) 年に町が策定した総合戦略において、人口減少を緩和するための重点取組事項「八頭イノベーション・バレーの創出」として空き施設を活用したサテライトオフィスの開設を検討。以降、地域住民を交えた協議会や、民間企業・地域金融機関を加えたまちづくり事業会社設立準備委員会を設立し、運営体制や施設整備について意見を集約。複数のステークホルダーの参画を促し具体的な検討を重ねた。2017 (平成29) 年に町が廃校となった校舎をリノベーションした上で、地域の民間企業等を中心に新たに設立されたまちづくり会社(株)シーセブンハヤブサ)へ無償貸与し、コミュニティ複合施設「隼Lab.」として開設した。



廃校活用のメリット・効果

同規模施設の新築に比べて安価な改修費用で活用が可能なほか、民間事業者の運営により、本来かかる維持管理費用の削減につながるなど、財政的なメリットが大きい。また、廃校以前から、同施設のグラウンドが指定緊急避難場所、体育館が指定避難所としてそれぞれ指定されており、これらの維持管理が継続して行われることもメリットとして挙げられる。また、地域コミュニティの場や思い出の場である校舎の活用は、地域住民にとって関心度が高く、その検討や活用後の運営に対して主体的な参加を促すことができる。廃校後も地域住民が集まれるコミュニティスペースとして維持し、それまで地域を訪れることのなかった人々も集う新たな地域拠点として整備することにより、地域活力の衰退防止につながる。

活用開始までの課題・苦労したこと

これまでにない新たな取組であったため、議会を含む地域の理解と協力を得ることが必須の課題であった。事業検討の進捗に応じて、随時住民説明・議会説明を行ったほか、地域住民を交えた運営協議会を設立し、意見集約とその反映に努めた。サテライトオフィス機能を有した施設でありながら、地域住民も日常的に利用する前提で検討が進められた。(株)シーセブンハヤブサの設立後には、同社も運営協議会に参加し、地域住民と民間企業が連携した運営体制を構築。グラウンドを会場に行われる地区の運動会では、他の集落に並んで隼Lab. (入居企業・会員) が一集落として参加したり、地域住民と入居企業が一緒に敷地内の草刈りやプール清掃を行うなど、新たな地域の拠点として機能している。

施設詳細URL <https://hayabusa-lab.com/>